

新春対談

鳥取市の発展と商工業の振興に向けて



対談場所：鳥取商工会議所（本町三丁目）応接室

新年明けましておめでとうございます。昨年11月、鳥取商工会議所の会頭に就任された藤縄匡伸さんと竹内功鳥取市長が、鳥取市の発展のために取り組むべき課題について語り合いました。雇用確保や若者定住、観光振興などの施策について、それぞれの持論を展開。お互いの連携を強化することを確認しました。

雇用を確保し、鳥取の元気を支える

竹内 新年明けましておめでとうございます。まず、会頭から鳥取市の発展に関するお考えをお話いただけますか。

藤縄 商工会議所の会員である会社のみならずが元気になつてもらうことを前提に、「鳥取の元気」をめざして頑張っていきたいと思えます。我々のミッションは、「政策提言」「中小企業の活力強化」「地域経済の活性化」の3つです。行政とも一緒に「鳥取の元気」

という目的に進んでいきたいです。抽象的かもしれませんが、産学官連携をさらに深めて、実効性のある形で進めていきたいと思えます。

竹内 産学官連携をぜひよろしくお願いします。さて、共通の関心事は、やはり経済・雇用です。県内の有効求人倍率は昨年10月時点で0.94まで向上しましたが、これからも地元の雇用を最重要課題として力を入れていきたいと思えます。商工会議所の取り組みや、市に対する期待などはいかがでしょう。



藤縄 商工会議所が、150社を対象に行った、昨年7～9月の景気動向調査では、売上高が全業種で7年ぶりに高い前年比を示しました。その勢いが今年につながれば、かなり期待が持てる年になると思います。

ただ、一番心配しているのは少子高齢化です。30年後の県内人口が44万人になるという推計が出ています。そうすると就業人口が減り、購買力も減る。ますます鳥取の元気とは逆行する可能性があります。人口減にどう歯止めをかけるのか。流入人口と定住者を増やすことを考えないといけません。流入人口を増やすのは、具体的には観光、そして学生です。定住者を増やすには、企業誘致とU・J・Iターンを促進する。その方法を公と連携しながら考えていくべきです。



竹内 企業誘致は新たに雇用を生み出すのに非常に有効です。昨年は、三洋電機の工場跡地に源吉兆庵の進出が決まりました。予定されている雇用は330人と、製造業としては平成以降で最も大きい規模です。藤縄 商工会議所としては、大型小売店の進出を防いでいただき、大変ありがたいと思います。一番の理想は、下請けに波及できるような製造業に来ていただくことですね。そこにもお気をとめていただくことをお願いします。

竹内 その点は十分留意してあります。誘致企業については、永続的・持続的な発展が見込めるのかも重要です。地域の産業構造への波及効果を考えながら取り組みたいと思えます。商工会議所の会員企業のみならずにも地元雇用を増やすような大活躍を期待しています。

藤縄 従業員は大切なので、何とか給料を増やしてあげたい。景気がよくなり、売り上げや利益が伸びれば、給料は上げられる環境になります。ただ、定期昇給やペーシングを行いますと、下げるのが難しくなります。年間の従業員所得を増やす手だてとしてボーナス、一時金がありますので、成績に応じてボーナスで対応していくという動きがまず出るでしょう。鳥取は今年あたりから改善に向かうのではないのでしょうか。

交通網を整備し、流入人口を増やす

竹内 会頭は、以前から山陰海岸ジオパークの推進に力を入れておられます。観光は非常に可能性の高い産業分野なので、滞在型観光も含め、市全体の観光資源をもっと活かす必要があると思えます。藤縄 発信が不十分で、宝の持ち腐れになっているところが多々あります。また、県と市、そして民間も頑張っています。どこかバラバラだと感じます。連携を深めながら、効率的に観光の振興に取り組めないでしょうか。

鳥取しゃんしゃん祭は、今年で記念すべき50回を迎える

